

巻頭言

就任挨拶



羽生田智紀*

2012年4月より、本誌の編集委員長に就任いたしました。

電気製鋼は2009年から大同特殊鋼技報として生まれ変わりましたが、旧学術誌の目的である特殊鋼技術の普及を継承し、技術紹介にとどまらず用途紹介も行うことで社会的責任の遂行に寄与したいと考えております。

さて昨年3月に発生した東日本大震災から1年が経過しました。被災地の復興と日本経済の回復は日本国民のみならず、世界の願いにもなっています。また、震災によって引き起こされた原子力発電所の事故は復興をより困難にしているのみならず、原子力発電の安全性に対する根本的な疑問が国内外で持たれ、世界市民的な議論に広がっています。不安のあまり感情的な議論に陥ることなく、人の暮らしと産業・経済を如何に両立させるかという議論が十分なされるべきだと思います。環境や安全と利便性のバランスを考え、我慢ではなく工夫することで「豊かさ」に対する考え方のパラダイムシフトが必要です。グーグルをはじめとする情報検索、楽天などのイーコマース、ユーチューブなどのエンターテインメントなどICT（情報通信技術）が大きく我々の生活を変えてきました。今後はスマートグリッドなど、エネルギー分野の変革によって環境変化に対応し、限られた資源を効率よく供給・使用することでより豊かな社会の形成に向かっていくべきだと思います。

本号は「産業機械部材特集」です。資源掘削、発電、輸送、環境設備に使われる材料の開発や適用事例など、13件の記事をお届けします。自動車や電機だけでなく、日本が強みを持っている技術の一端をご覧いただきたいと思えます。

産業機械と言えば、世界の経済を支えるという意味で、製造や輸送産業ばかりでなく情報分野も含めた産業・経済の基礎であることは間違いありません。重厚長大のイメージからエネルギー多消費型産業の代表選手のように思われがちですが、そうであるからこそ、環境やエネルギーの問題における主役であるとともに責任があります。部材を提供する側もその責任をやりがいと捉え、社会に貢献すべく努力していくべきだと考えています。その意味で本誌が皆様のお役に立てれば幸いです。

*大同特殊鋼研究開発本部副本部長